

## 日本藻類学会第 34 回大会開催記・参加記

### 宮村新一：大会をふりかえって

日本藻類学会第 34 回大会は 2010 年 3 月 19 日～22 日までの 4 日間、筑波大学で開催されました。2008 年の東京海洋大学での大会で第 34 回大会開催をお引き受けしたものの、会場となる筑波大学では、2009 年の 7 月に国際生物オリンピックが開催され、そのすぐ後に IPC9 が東京で開かれたために大会の準備をはじめたのは 2009 年の秋からでした。つくば地区の藻類学会会員が集まり、大会会長は定年になるのが一番近いということで（というルールがあるらしいのですが）環境研の笠井文絵氏に決まり、会場は筑波大にすることなど大まかに役割分担を決めて準備をすることになりました。大会準備は、中山 剛氏（筑波大）が大会ホームページを立ち上げて大会案内やプログラムを公開し、参加受付の事務は飛田八千代氏（筑波大）が引き受けてくださったので参加・発表申し込みなどについては特に大きなトラブルもありませんでした。その後も、筑波大の私と石田健一郎氏、中山氏のオフィスがすぐ近くにあることもあって顔を合わせるたびに話し合いながら準備を進めました。また、公開シンポジウムは筑波大の渡邊 信先生、井上 勲先生と田辺雄彦氏、エクスカッションは国立科学博物館の北山太樹氏、ワークショップは国立環境研の河地正伸氏に企画・準備していただきました。ただ、大会開催の準備を始めるのが遅かったためにつくば市などに大会開催の援助金の申請をすることをすっかり忘れてしまい大会運営は学会本部からの援助金と大会参加者の参加費だけで賄うことになったのですが、筑波大学と共催というかたちを取らせていただいたために会場の使用経費などはいっさいかからずなんとか赤字を出さずに大会を終えることができました。

本大会では、3 月 19 日のワークショップ I での井上 勲先生の講義「藻類 30 億年の自然史」と同時進行で進められたレクリエーションのテニス大会を皮切りに 20、21 日に 126 題（口頭発表 62 題、ポスター発表 64 題）の研究発表がありました。半年前に IPC9 が東京で開催されたこともあったので参加者はそれほど多くないのではと予想していたのですが、最終的には例年とそれほど変わらない 265 名の方が参加されました。大会会場の筑波大学生命環境学群棟はバス停から少し離れた場所にあるために多少わかりにくかったかもしれませんが、会場自体は口頭発表会場、ポスター会場、商品展示室、休憩室を 4 階のフロアに集め全体的にコンパクトになるようにしました。商品展示、グッズ販売は休憩室で行なうようにしたためか、2 日間とも盛況でした。グッズ販売では IPC9 のバッグや筑波大の中山 剛・山口晴代夫妻手作りの藻類のキャラクターが鋳められたカレンダーなどが飛ぶように売っていました。

20 日は、口頭発表、ポスター発表が行なわれました。口頭発表は例年通り 2 会場でおこないました。ポスター発表の時間は、1 時間では短いだろうということで 1 時間 30 分としました。発表開始の時間については、つくばエクスプレスが開通して東京が近くなったので東京近辺に宿泊する方もいるだろうからと少し遅めに開始することも検討したのですが、プログラムを組んでみるととてもその余裕はなく、結局、20、21 日の 2 日間ともに 8 時 30 分受付開始、9 時発表開始になりました。研究発表、公開シンポジウムを 2 日間におさめる大会運営のまま、今後、発表数がふえることがあれば、会期の延長も含めて何らかの対策をとらざるをえないのではないかと思います。

20 日の夕方には総会が開催され、その後少し遅れて懇親会が筑波大学第 2 エリア大食堂でおこなわれました。今回は懇親会への当日参加を受け付けたために参加人数が当日の午前中まで決まらずに少し心配したのですが、195 名の参加があり会場が少し狭かったかなと思います。懇親会は、北山氏の司会で始まり、会の途中では井上 勲先生の司会による藻類学会会員が出品してくださったお品に対するオークションがあり大いに盛り上がりました。お酒も筑波の地酒や牛久ワインのほか筑波大が作った純米吟醸酒「桐の華」を用意しました。昔に比べてつくば市内の交通の便も少しは良くなったのですが、それでも懇親会が終わった 21 時頃にはバスも少なくなり皆様にご不便をおかけしたかもしれません。

21 日は、研究発表の後、午後から同じ会場で公開シンポジウム「未来を拓く藻類エネルギー」が開催され、最近、新た



ポスター発表風景

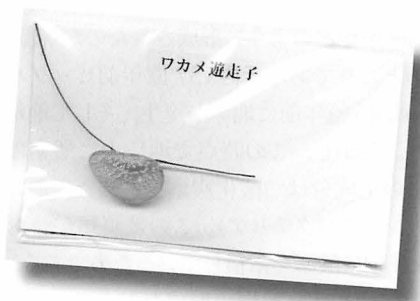
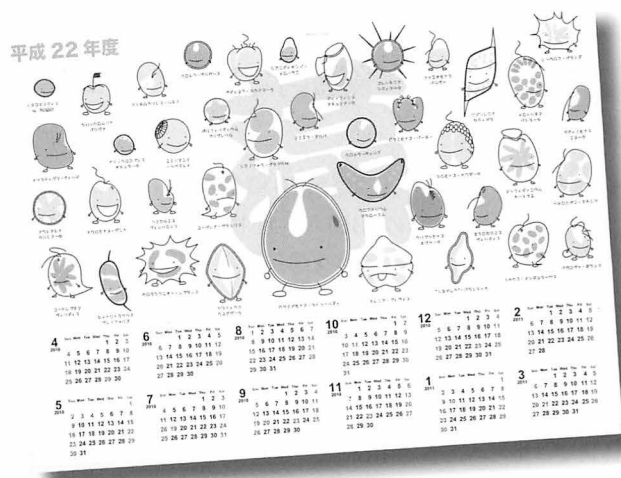


懇親会の様子

なエネルギー資源として注目されている藻類を用いたオイル生産に関する4題の講演があり、藻類学会会員の他にもつづば市民や企業の方など126名の参加者がありました。講演いただいた、渡邊 信先生(筑波大)、河地正伸氏(国立環境研)、田中 剛先生(東京農工大)、近藤昭彦先生(神戸大)にこの場を借りてお礼申し上げます。公開シンポジウムと同じ時間帯には、エクスカッション「昭和天皇の生物標本コレクション」が開催され12名の参加がありました。生物学者としても著名であった昭和天皇のコレクションは筑波実験植物園内にある国立科学博物館昭和記念筑波研究資料館に収蔵されており普段なかなか見ることができないものです。大会会場から筑波実験植物園まで移動後、植物園内の温室、昭和記念資料館のコレクションを見て回り、最後に植物研究部棟の海藻標本室などを見学しました。また、21日の午後から22日にかけてワークショップII「藻類色素のHPLC分析入門」が国立環境研で開催され宮下英明氏(京都大)の講義と色素分析の実習が行なわれました。これら3つの企画は21日の午後の同じ時間帯に同時進行で進められたために複数の企画に参加したかった方には申し訳ないことをしたと思っていますが、大会全体のスケジュールを考えるとこのようなかたちにせざるを得ませんでした。

大会特別企画「(有)浜野顕微鏡コレクション特別展示」では浜野顕微鏡さんが所有する貴重な顕微鏡コレクションの一部を休憩室1で展示してもらいました。浜野氏は様々な光学顕微鏡を収集しておられその一部はインターネット上でも公開されていますが、今回はフィールドにでることが多い藻類学会会員の皆様のために普段なかなか目にすることができない携帯用の顕微鏡を展示してもらいました。浜野さんには年度末の忙しい時期に展示にご協力いただきましてどうもありがとうございました。

つづばでの大会開催は、2002年のAlgae 2002以来、8年ぶりの開催でしたが、つづば地区は会員も多く準備期間が短



好評だった大会グッズ

かった割にはスムーズに大会運営を進めることができたのではないかと思います。大会直前の会場設営などの準備作業には筑波大の植物系統分類学研究室、渡邊 信研究室と橋本哲男・稲垣祐司研究室の学生・大学院生・研究員の皆様に協力してもらいました。また、テニス大会は南雲 保氏(日本歯科大)、山口晴代氏(筑波大)、エクスカッションは、並河洋氏(国立科学博物館)、田中法生氏(同左)、新山優子氏(同左)、小木曾映里氏(同左)、鈴木雅大氏(東邦大)、ワークショップは出村幹英氏(国立環境研)、記録写真撮影は大金 薫氏(国立科学博物館)、ロゴマーク作成は平川泰久氏(筑波大)に協力して頂きました。ご協力いただいたことに心より感謝申し上げます。最後に全国からつづばまでおいでいただいた参加者の皆様にお礼申し上げます。

第34回大会実行委員は以下の通りです。笠井文絵(国立環境研)、河地正伸(同左)、北山太樹(国立科学博物館)、辻 彰洋(同左)、大村嘉人(同左)、渡邊 信(筑波大学)、井上 勲(同左)、白岩善博(同左)、鈴木石根(同左)、石田健一郎(同左)、岩本浩二(同左)、中山 剛(同左)、田辺雄彦(同左)、横山亜紀子(同左)、中山卓郎(同左)、宮村新一(同左)(敬称略、順不同)。

(筑波大学大学院生命環境科学研究科)